

流れをつかむ民事訴訟法

笠井正俊 著

担当編集から

本書は、法学教室連載「流れをつかむ民事訴訟法」をまとめた書籍です。単行本化にあたり、複数掲載した項目は1つの章にまとめ、巻末補足説明を2つ織り込みました。著者の笠井先生は、民事訴訟法を勉強し始めた頃に「取っ付きにくさ」を覚えたそうです。訴訟は学生にとって縁遠く、その感覚は至極当たり前ですが、皆さんが訴訟のイメージ（流れ）をつかみ、民事訴訟法が嫌いにならないよう、「判例になるような問題や学説上の議論なども、できるだけ流れの中に位置づけて取り上げ、それぞれの問題の所在を含めて、民事訴訟法を実際の訴訟手続の流れとの関係で実感してもらえる内容」を意識されています。また、民事訴訟手続のIT化（デジタル化）等を目的とした民事訴訟法等の改正（2022年改正）については、既に施行された内容はもちろん、未施行改正の内容についても、注や括弧内、巻末補足説明でふれていただきました。本書を通じて、民事手続と民事訴訟法の理解を深めていただければ幸いです。（SK）

Point

民事訴訟法に「取っ付きにくさ」を覚えたときに、迷わず手に取ってほしいテキストです。

- 第1章 民事訴訟手続の流れと基本原則
- 第2章 訴えの提起と訴訟物
- 第3章 裁判所と当事者
- 第4章 訴状等の送達・第1回口頭弁論期日
- 第5章 訴訟要件総論
- 第6章 訴えの利益
- 第7章 当事者適格
- 第8章 共同訴訟
- 第9章 攻撃防御方法の提出と争点証拠整理手続
- 第10章 事実の証明と認定
- 第11章 書証の取調べと人証の集中証拠調べ
- 第12章 訴訟上の和解等、訴訟を終了させる当事者の訴訟行為

- 第13章 判決の言渡しと給付判決の執行力
- 第14章 判決の確定と確定判決の効力
- 第15章 上訴
- 第16章 請求の併合・訴訟係属中の訴訟物の追加
- 第17章 訴訟係属中の当事者の交代・追加等
- 第18章 口頭弁論の分離・併合、重複訴訟の処理
- 第19章 一部請求後の残部請求、相殺の抗弁
- 第20章 手続保障と訴訟の実効性確保
訴訟記録とその閲覧——巻末補足説明1
法定審理期間訴訟手続——巻末補足説明2

流れをつかむ 民事訴訟法

笠井正俊

Understanding the Proceedings of Civil Procedure
KASAI Masahito

法学教室
ライブラリー

民事訴訟法の 働く場面と働き方を知る

民事訴訟法について具体的なイメージを持つことができるよう、
訴訟手続の流れを意識しながら
判例や学説に読み込んだ希望のテキスト。



詳細を
見る



レベル - 用途 - 対象 -

中級 学習 学部 LS

2025年12月発売 / 398頁 / 定価3960円(税込)

A5判 / 並製

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

